

# フクジュソウ

*Adonis ramosa*

キンポウゲ科



フクジュソウ

## 名前の由来

新年を祝う花として元日に用いるため、幸福と長寿を意味するこのおめでたい名前が付けられた。また別名でガンジツソウともよばれる。漢字名：福寿草

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシタカ

## 特定種

北海道レッドデータブック…絶滅危急種 (Vu)

## 形態的特徴

高さ15～30cmになる。茎ははじめ膜質の鞘のような葉に包まれており、成長するにしたがって細かく切れ込んだ葉を広げはじめる。葉は3～4回の羽状複葉で、基部に小型の托葉がつく。花は茎の頂につき鮮やかな黄色で、20～30枚の花びら（花被片）と、中心部に多数の雄しべ、雌しべをつける。花は日中に開き、常に太陽の方を向いている。



フクジュソウ。よく大きな群落で見られる



フクジュソウの花。毒草（薬草）である



フクジュソウの葉。黄色く丸い実が見える

## 類似種と見分け方

キタミフクジュソウ。

フクジュソウは1本の茎が枝分かたれて数個の花をつけ、葉の裏面はほぼ無毛であるのに対し、キタミフクジュソウ

は1本の茎に花を一つのみつけ、葉の裏に毛が密生する。両者は昔同じ種類とされており、見分けが難しい場合もある。

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期	■											■
結実期		■										

## 生育環境・分布

広葉樹林下に生育する。堤防の草地などでも見られる。しばしば群生する。湿りすぎず、乾燥しすぎず、夏は草や木の陰になる場所を好む。

**分布：**日本固有種のため国外には分布せず。類似種のキタミフクジュソウは北海道の北部、東部のほか、朝鮮、中国東北部、シベリア東部にも分布する。

国内分布は、北海道、本州、九州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、広葉樹林下で見られる。堤防の草地などでも見られ、しばしば群生する。

## 生活史

**開花時期：**3月中旬～5月上旬。雪解けと同時に開花する  
**開花までの年数：**不明

**寿命：**多年草。

## 他生物との関わり

花には虫が訪れる。

## 興味深い話

■フクジュソウの花の開閉は温度に反応して起こり、気温10℃以上で開き始め、15～20℃で完全に開花する。そのためこの花を十分観賞するためには晴れた暖かい日に、あまり早起きせず出かけるのがよいという。もし閉じた花しかなかったら手で覆って暖めてやると、時間はかかるが少しずつ開花してくる。

■薬用成分はアドニンと呼ばれ、強心作用もあるが、素人療法では死亡することもあるほどの強力な毒素ともなる。

■かつてはフクジュソウ、キタミフクジュソウ、ミチノクフクジュソウはフクジュソウ一種としてひとくくりにされており、江戸時代のはじめから観賞用に栽培され今でも多くの園芸品種が出回っているが、これらの品種の多くは本州・九州に分布するフクジュソウ（種）とミチノクフクジュソウとその雑種に由来するという。

■十勝地方のアイヌ語では「チライムン」という。

■アイヌ語名チライムンのチライは川魚の「イトウ」を、ムンは「草」を意味し、フクジュソウの開花が春の訪れとともにイトウが産卵のために遡上する時期を告げることから名付けられたという。他地方ではチライ・アパッポ（イトウ・花）、チライウレブ（イトウ・茸）、チライキナ（イトウ・草）などとも呼ばれる。

■アイヌの人々は、その金色に光る花の色に神の光を見てユカラ（詩曲）にうたった。あるいは人の心をも見抜く眼

差しに例えて「フクジュソウのような眼」と言い表したという。

■日高の様似地方のアイヌ語では、クナウと呼ばれる。言い伝えでは、クナウとはカンナカムイ（雷神）の美しい末娘で霧の神。父が婿として選んだホイヌ（テン）を嫌い、霧のごとく消え去った。ホイヌは血眼になって探し、枯れ草の陰にふるえているクナウを見つけた。怒ったホイヌは土の中へクナウを踏みつけ、「おまえなど草になってしまえ」と呪いののしった。クナウは、ホイヌに見つからないように、ホイヌの活動しない間に、雪の消えた合間からそっと顔を出して天を仰いでいる、のだという。



フクジュソウ。種を落とした後、多くの花が開花し始める頃には、もう枯れ始める

## 配慮事項

生育している環境全体が重要である。フクジュソウは湿り気が適度にあり、かつ排水のよい場所を好む。また、夏の

強い日差しには弱いため、夏は木や草の陰になる必要がある。

### 参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989  
「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001  
「日本の野生植物 草本Ⅱ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982  
「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995  
「花のおもしろフィールド図鑑 春」ピッキオ 実業之日本社

2001  
「森林で遊ぼうシリーズ3 おもしろい草花の話」北海道立林業試験場 北海道林業改良普及協会 1998  
「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館（編）、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ